

令和3年度 さいたま市立指扇小学校 学校関係者評価書

さいたま市立指扇小学校

学校関係者評価委員長 月城 国仁 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 9名
- (2) 実施回数 3回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

(1) 教育活動

- ①登校を見守っているが、あいさつする児童が増えている。卒業して中学生となってもあいさつがよく、目を合わせてあいさつする生徒が多く見られる。学校経営や中学校との連携がうまくいっていると感じる。
- ②感染症拡大防止のため学校生活に制限もある中、少しずつ学校行事が戻ってきてよかった。保護者からも「学校での様子を見ること、知ることができて嬉しい」という感想が聞こえてきている。
- ③感染症対策や働き方改革の視点で運動会の保護者参観方法がとても効率的で参考になった。
- ④コロナ禍が続いていることから、子どもたちの心のケアをどのように行っていくかについては、今後検討していく必要があると感じている。
- ⑤いつも生徒指導の運営や状況把握がきめ細かく行われている。中学校の実態や課題と同様である。自信をもってやってみようと思う子どもたちを育てたい。
- ⑥自己肯定感を高めるために、「全部できなくてもいいから、まずはやってみよう」と思えることが土台となると思う。
- ⑦「あったか言葉」の校内掲示は、とてもよい取組であり、地域や保護者の協力も可能であると感じる。

(2) 家庭・地域との連携

- ①学校に地域が貢献できることがもっとあるのではないかと。何かできることがあれば、積極的に学校に協力していきたい。
- ②希望個人面談には、約7割の希望があったとのことだったが、希望のなかった3割の保護者や児童が学校生活をどのように感じているのか、家庭で学校のことが話題に挙がっているか等について知ることができるとよい。
- ③以前より学校との連携がとれており、PTAの活動も非常に円滑に進んでいる。
- ④例年行っていたバザーがコロナ禍で中止となっている。バザーに代わる取組を行えるようにアイデアを出したい。
- ⑤地域と学校の交流が少なくなってさみしいと感じている。「指扇まつり」の運営に子どもたちも参加できるよう、今後計画していきたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

(1) 教育活動

- ①「自己指導能力を育成する3つの柱」を基に、意図的・計画的な生徒指導を一層推進する。
- ②不登校や登校渋り等、配慮を要する児童に対し、支援室やICTの効果的な活用を図り、個別最適な学びを実現するとともに、一人ひとりのニーズに合った支援を行い、状況改善に努める。
- ③行事の実施について内容や方法、実施時期などを検討してきた。今後も充実した行事等がより安全に実施できるよう工夫していく。
- ④個人面談については、アプローチの仕方を工夫し、必要な家庭と面談できるシステムを構築したい。

(2) 家庭・地域との連携

- ①授業参観・学校公開日をほとんど実施することができなかったため、コロナ禍においても学校の様子を保護者、地域の方に公開できる方法を検討する。
- ②コミュニティ・スクール実施に向け、家庭・地域との連携が深まるような取組を検討する。